

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 9	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Association of age at first drink with current alcohol drinking variables in a national general population sample 国民の一般集団における初回飲酒年齢と現在の飲酒指標との関連	
執筆者 York JL, Hirsch J, Hoffman JH, Barnes G	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Alcohol Cli Exp Res 2004; 28: 1379-1387	
キーワード Alcohol drinking, gender, age at first drink, alcohol problems 飲酒、性別、初回飲酒年齢、飲酒による問題行動 (アルコール依存と乱用)	
要 旨 背景 初回飲酒年齢は成人期のアルコール依存などの問題行動と関連すると言われているが、初回飲酒年齢と現在の飲酒指標の関連を具体的に検討した報告はほとんどない。 対象と方法 対象者は、アルコールや薬物への依存などの関連を調査する目的で、無作為な電話番号調査によって選ばれた 18 歳以上の米国を代表する集団である。応答率は 65.4%であり、調査実施者 2,631 人のうち、初回飲酒年齢の明らかな 2,276 人 (男性 981 人、女性 1295 人) を分析対象とした。初回飲酒年齢と現在の飲酒習慣、アルコール依存症・乱用の現病歴、既往歴等との関連を検討した。 結果 平均初回飲酒年齢は、男性 15.3 歳、女性 17.9 歳であった。現在の年齢が若いほど、初回飲酒年齢が若く、14 歳以下で飲酒を開始した者の割合が高い傾向を示した。性、年齢、人種、現在飲酒者か否かを調整したロジスティック回帰分析の結果、初回飲酒年齢は、アルコール依存・乱用歴の有無と有意な負の相関を示し、即ち、飲酒開始年齢が高いほどアルコール依存・乱用者の危険度は低かった (オッズ比 0.88, $P < 0.001$)。また初回飲酒年齢は、現在の飲酒量、飲酒頻度、飲酒習慣の持続期間、1 日飲酒量、血中アルコール濃度のピーク (推計値) と男女とも有意な負の相関を示し、特に若い年齢ほどその傾向が強かった。初回飲酒年齢と上記指標の関連は、調査時の年齢が高いほど男性でより強い相関を示していたが、若い年代ではほとんど男女差を認めなかった。 結論 初回飲酒年齢は、血中アルコール濃度のピーク推計値やアルコール関連疾患の発症、飲酒頻度などを予測する良い指標である。また初回飲酒年齢やその将来の飲酒状況に与える影響は、若い世代ほど男女差を認めなくなっていることが示された。	